

— 水の王国 とやま —

富山の水がおいしい理由

富山の水のクオリティ ～河川水と水道水～

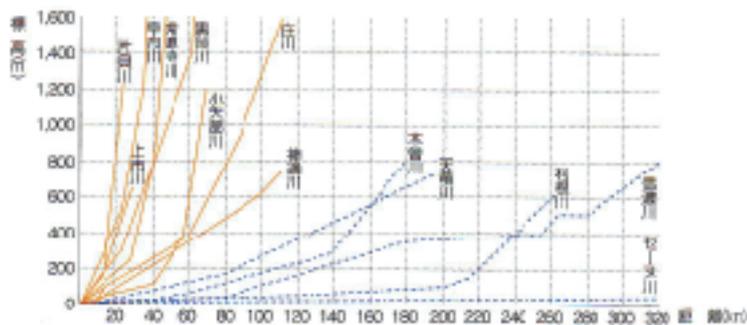
水質指標	おいしい条件	河川水	水道水	コメント
硬度 (mg/L)	10～100	31.2	28	ミネラルの中で量的に多いカルシウム、マグネシウムの含有量。硬度が低いとクセがなく、高いと好き嫌いがでる
鉄分 (mg/L)	0.5以下	0.06	—	水をまずくする代表的な成分である鉄分
蒸溜残留物 (mg/L)	30～200	56	77	主にミネラル含有量を示す。多いと苦味が増し、適度に含まれるとこくのあるまろやかな味になる
遊離炭酸 (mg/L)	3～30	—	3.3	溶け込んでいる炭酸ガスや酸素の量。さわやかな味を与えるが、多いと刺激が強まる
有機物等 (mg/L)	3以下	—	0.6	有機物量を示し、多いと渋みがつき、多量に含むと水の味を損なう
臭気強度	3以下	—	なし	水源の状況により、さまざまな臭いがつくと不快な味になる
残留塩素 (mg/L)	0.4以下	—	0.1	水にカルキ臭を与え、濃度が高いとまずくなる

(出展) 河川水:とやま名水協議会ホームページより
水道水:富山市上下水道局発行 広報「水とくらし」創刊号(2002)より

これは川ではない、滝だ

明治時代、堤防工事のために富山県を訪れたオランダ人土木技師ヨハネス・デ・レーケは常願寺川を見て「これは滝だ!」と叫んだそうです。

富山県には5つの1級河川を含む大小310以上の川が流れています。代表的な県内河川と全国各地の大河川を比べると勾配が急激で、これは川にとっては途中で汚染される間がなく、酸素による新陳代謝も活発で、水は常にきれいな状態となります。



日本の地質の見本

富山県の地質には、数億年から数千年前までのあらゆる時代の地層や岩石が、そして日本列島に分布するあらゆる種類の地層や岩石が存在しています。山岳地帯は花崗岩や変成岩(約1/3が石灰質の岩石)、中生代の砂岩や礫岩で、富山湾を取りまくように分布する前山や丘陵地は新第三紀の地層や堆積岩・火山岩でできています。平野部は新しい時代の扇状地が発達し、富山湾を中心に同心円を描くように県下全域に形成された同質の大地を川が流れています。

花崗岩は水をろ過する働きがあり、新第三紀の地層や岩石、石灰質の岩石からは、水のうまみとなる各種のミネラルが溶け出しています。まさに日本列島のひな型ともいえる恵まれた地質に磨かれ育まれ、とやまの水はおいしくなっていくのです。